

——東日本大震災遺児作文集①——

お父さんの顔

あしなが育英会・編

筑波大学名誉教授

副田義也・監修



お父さんの顔
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。

お父さんの顔
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。
お父さんの顔は、いつも笑顔で、
やさしく、お話を聞かせる。



釜石ワンディプログラムで遺児たちの心をほぐすファシリテーター

お父さんの顔 S・I (福島県・小5女子)

私は、津波のあと、しばらくして、
遺体安置所にいきました。
そこには、お父さんと、
そのほか3人がいました。
そこには、お母さんが先にいって、
お父さんの顔を、
泣きながら見てました。
泣きながら見てました。
私は、お父さんの顔を見たら、
血だらけで、泣きました。

目次

《表紙写真》
◎ 故なくして肉親を奪われた遺児たちの作文原稿
◎ ついでに仲間たちと遊ぶ遺児

お父さんの顔 S・I (福島県・小5女子)	2
一篇の作文が日本を動かす あしなが育英会会長・玉井義臣	4
はやくみつかってよかった T・S (福島県・中1男子)	6
お墓に骨をいれないけど T・H (岩手県・小5女子)	7
すべて、元に戻ればいいのに E・U (岩手県・大2女子)	8
「今、どこにいるの？」 R・S (宮城県・中2女子)	10
お空から、ちゃんと見ててね Y・S (宮城県・小2女子)	12
僕は話せない S・S (岩手県・小6男子)	13
くさった人は父じゃない M・T (岩手県・中2女子)	14
津波が来るなんて…しんじられない J・A (岩手県・小4男子)	16
いなくなった父さん Y・O (福島県・中1男子)	17
しょうらいは農業へ N・H (宮城県・小5男子)	18
はなればなれになったおばあちゃん H・K (福島県・中1女子)	19
何回も来た余震 H・A (宮城県・高3女子)	20
本当に亡くなったんだね T・M (岩手県・小6男子)	22
津波でなくしたお母さん K・Y (福島県・中1男子)	24
空が青くて、とても暖かい日 N・N (宮城県・高1女子)	25
監修者の感想 筑波大学名誉教授・副田義也	28
保護者からのお便り	30
あしなが育英会東北事務所から	32
八木俊介、若宮紀章、富樫康生、今野亜紀	34
東北レインボーハウス建設への道 東北事務所長・林田吉司	34

一篇の作文が日本を動かす

あしなが育英会会長 玉井義臣

半世紀を迎えようとするあしなが運動は、多くのあしながさんに支えられてきた。感謝してもきれない。古くからのあしながさんに、どうしてあしなが運動にご協力いただけたのかと、たずねたことがある。異口同音に、その答えは「天国にいるおとうさま」を読んだから、だった。

「天国にいるおとうさま」とは、交通事故で父親を失った10歳の少年中島穰君が書いた、わずか313文字の作文である。

はじめて読んだとき、最愛の母を交通事故で失っていた私は泣いた。当時、私がレギュラー出演していた「桂小金治アフタヌーンショー」で、この作文を中島少年が読み上げたとき、ブラウン管の内外を問わず涙であふれた。一家の大黒柱を失って、進学の夢を断られた交通遺児の子らに、日本全国があたたかな眼をそそぎはじめた。

大げさではなく、日本の政財官界、マスコミが動いた。更に、あしなが運動は中島少年の作文により、あしながさんというなにより強い味方を得たのである。

その後、交通遺児のみならず、病氣遺児（特にがん遺児）、阪神大震災の震災遺児、自死遺児らの作文集をあしなが育英会は世に問い、遺児救済の道を開いてきた。

そして今、千年に一度という東日本大震災により、故なくして父を母を、あるいは一家全員を奪われた震災遺児たちが、心の中に秘めていた「想い」を作文にして訴えている。表紙裏の作文を、今一度お読みいただきたい。中島穰君とほぼ同年齢の少女は、

「お父さんの顔を見たら、血だらけで、泣きました」と、書いた。

わずか118文字しかない少女の作文に、夫を失った母親の、そして父親を失った娘の悲しみがあふれている。最愛の肉親を奪われた震災遺児たちの心の叫びに耳を傾けていただきたい。そして、その悲しみを癒すために、あしなが育英会が進めている「東北レインボーハウス」建設へのご理解をいただきたい。

この作文集が、再び日本を動かすことを、私は信じている。

はやくみつかってよかった

T・S (福島県・中1男子)

ぼくのおっ母は、津波のときに家の中で、死んでしまいました。

ぼくの家族4名死んでしまいました。

でも、ずっとゆくえふめいにならなくてよかったです。

ぼくたち家族4名は

家のちかくで死んでいたのが口惜しかったです。

でも、けっこうはやくみつかってよかったです。

ぼくたちは、学校にいたのでたすかったです。

でも、友達の机にテレビがおちたのはびっくりしました。

でもそこにテレビがおちた机にはだれもいませんでした。

その机におちてきた友達は、家にいたのでたすかっていました。

お墓に骨をいれないけど

T・H (岩手県・小5女子)

親が亡くなって大変な事は、

友達とけんかをしたときに相談ができないから、

ストレスをためている事です。

親が、津波でまだ見つかっていないので

お墓に骨をいれないけど、

かわりのものをいれました。

それは、手紙・家族の写真などで、

つぼにいれて、お墓にいれました。

私のお母さんは、やさしくて、おもしろいお母さんでした。

おばあちゃんは私にとってお母さん見たいな人で、

せわやきなおばあちゃんでした。

すべて、元に戻ればいいのに

E・U (岩手県・大2女子)

震災の前は、家族のありがたみと当たり前がどんなに幸せかをわかっていなかったと思う。家があって、両親がいて、おじいちゃん、おばあちゃんがいて。そんなすべての事があって、当たり前だと思っていた。

又、震災の前は、普通の女の子と同じ様な事で悩んだりして。家族旅行、お母さんが料理を作ってくれて、お父さんが車の運転を教えてください。当たり前が、どんなに幸せな事が全く理解していなかった。

震災の当日は、アメリカのカリフォルニアにいて、友達からの電話で知らされた。

いつもの地震程度にしか、考えていなかった。

TVを見て、やっと事の大きさに気が付いた。

妹にさえ、一週間連絡が取れず、不安な一週間をすごした。妹に、やっと連絡がついた頃に

は、親せきから、「えっちゃんの両親は、まだ不明」と聞かされた。

まさか、自分の親が、自分が生きているうちに、震災の被害者になるとは想像もしていなかった。

震災の後は、毎日(いまでも)泣く日々、悩む日々が続いている。

すべて、元に戻ればいいのに。

まだ、両親の死を受け入れることは出来ないけど、一步一步進んで行かなきゃいけないプレッシャーもある。

自分が、心の整理と現実についていけないと実感する。

けど、私が(妹も)生きている事は、奇せきに近いことだし、両親が妹を生んでくれて、本当に感謝している。一人っ子だったら、やっていけないかと思う。

又、周りの人達にも感謝している。とにかく、人生は人と人とのつながりで成り立つということ。ことを震災という形ですごく理解できた。

私の母と祖父、おばさん、曾祖母は3月11日の東日本大震災で亡くなりました。

3月11日の朝、私は普通に学校に行きました。

母と最後に交わした言葉は「いってきます」「いってらっしゃい」でした。

震災が起きた時学校にいた自分は、友達と一緒にいました。

友達は親が迎えにきて、私だけが誰も迎えにきてくれませんでした。

その時は、まだ小さい妹の所に行ったのだと思おうとしていました。

私と妹が会ったのは3月13日でした。

2人は、うれしくてうれしくて涙が止まりませんでした。

そこで妹が「ママは!？」と聞いてきて一瞬自分の中で時間が止まりました。

妹は「一緒じゃないんだ…」と小さい声でつぶやきました。

そこでなぜか分からないけど妹に「ごめんね」と謝っている自分がいました。

それから毎日毎日母を始め5人を探す日々が始まりました。

6月に曾祖母が遺体で見つかりました。

その近くに母のかばんも落ちていました。

曾祖母以外の残り4人は未だ不明です。

亡くなったという現実を知っていながらも、

まだどこかで生きているのではないかという思いがまだあります。

たまに遺影に

「今、どこにいるの?」

と話しかけます。

また皆と3月11日より前に戻って話したいというのが、今一番の願いです。

お空から、ちゃんと見ててね

Y・S (宮城県・小2女子)

わたしは、あしながレインボーハウスの全国小中学生遺児のつどいに出ました。心のケアプログラムでまいちゃんというファシリテーターの人と、家ぞくの人のことをそうだんしました。

わたしは、きよ年の3月11日の、大しんさいで、ひいおばあさんをなくし、お母さん、お母さんのいもうと、おじいさん、おばあさんがあんぴふめいです。

みんながいなくなつてから、なんでお母さんたち、さんかんびやいろいろなぎょうじにこないのと言われることが多いです。

それで、そのことを友だちに言ったほうがいいのか。言わないほうがいいのかをまよつてしまいます。でも、お母さんたちは見えています。なのでわたしも、くじけないでがんばろうと思います。お母さん。お母さんのいもうとさん、おじいちゃん、おばあちゃん。ひいおばあさん。お空から、ちゃんと見ててね。ぜったいだよ。やくそく。バイバイ。

僕は話せない

S・S (岩手県・小6男子)

僕は、3・11の東日本大震災で

大切なお父さんを亡くしました。

今回のつどいで僕は、

ほとんどの事をみんなの前で話せませんでした。

僕は話せなくてただ話を聞いていました。

話せなかったのには理由が2つあります。

1つは、

自分にとってすごく悲しい事だったからです。

もう1つは、

なぜかその時だけ涙が出てきたからです。

心のケアプログラムの時にずっと涙が出ていました。

くさった人は父じゃない

M・T（岩手県・中2女子）

私は、去年の東日本大震災で父を亡くしました。

最初はずっと父の死を受け入れることができませんでした。

父の遺体が見つかるまで仕事場と家を行ったり来たり、母は遺体安置所にも通いました。その間ずっと「私の親が死ぬはずない」と思っていました。

4月に父と無言の再会をした時、こんなふうにくさった人は父じゃないって思ったけど、親せきから「お父さんだよ」と言われ涙が止まりませんでした。

遺体の横にあったゴミ袋に、父の服とケータイが入っているのを見て、やっと父なんだと思えました。

父の遺体は、頭に穴が開いていたり、全身の骨が骨折したりしていたそうです。

父は津波にのまれてすごい痛みで死んじゃったんだと思います。

私は、何度も震災が起きなければよかったのって思います。

父とたくさん約束したのに、ほとんど果たせていません。

父はずっと結婚式を楽しみにしていました。

口ぐせで「中学卒業したら結婚しろよ」といつも言っていました。

将来、結婚式に父がいないのは、とても悲しいよりも、

結婚式姿を見せられなかったってくやしさのほうが大きいかもしれません。

私が一番後悔しているのは、父にいつも何かやってもらってばかりで、

父になにかするっていうことはしませんでした。

何かしてもらっても感謝の言葉を言った事はありません。

生きているときに言いたかった。

お父さん、今までありがとう。

津波が来るなんて…しんじられない

J・A（岩手県・小4男子）

ぼくが、小学校3年の3月11日、大津波が来ました。

ぼくは、津波が来るなんて、予想外でした。

そして、ぼくは、公民館にげました。

ぼくは、すごく泣きそうになりました。でも、泣きませんでした。

そして、お父さんがきた時、お母さん、弟、おばあちゃん、ぼくの町の人は、ほとんど死んだと聞いて、すこしなみだができました。

3日後、ぼくのいところが公民館におかえに来てくれました。

心がほっとしました。

しばらくたって、学校が始まりました。

ひなん場もあいていてよかったです。

でも、学校はおもしろくないです。

いなくなった父さん

Y・O（福島県・中1男子）

今年度の東日本大震災の津波で父さんを亡くした。

父さんは、昔から病気にかかっていた。

ぼくは、父さんといっしょにゲームをしていた。

父さんは何事にも全力を尽くしていけといっていた。

父さんは洗たくをし食品を洗い、飯を作ってくれていた。

父さんは亡くなる前に母さんと話していた。

父さんは、原発から近くにいて、探しに行ったけれど、水素爆発により探せなくなった。

父さんがいれば、あしながレインボーハウスにこなかったと思う。

でも震災で父さんを亡くし、レインボーハウスに来た。

これは運命かもしれない。

これから一生懸命に生きていきたい。

しょうらいは農業へ

N・H (宮城県・小5男子)

ぼくのお父さんは、3月11日東日本大しん災のつなみでなくなりました。

そのとき、ぼくは学校にいました。

ぼくは4月12日に、お父さんがなくなったことを知りました。

お父さんは農業をしていました。

いま、どうしてもっと仕事を手伝ってあげなかったんだろうと、おもいます。

お父さんがなくなってお母さんは、農業をしていたけれど仕事が無くなって、無職になったので、お母さんの実家にあるおばあちゃんの家ですんでいます。

ぼくはおそうしきのとき、お母さんはぼくのことを言ってくれました。

そのとき、なみだがあふれてきました。

新しくなった学校もなれてきました。

ぼくはしょうらい農業をしたいです。

はなればなれになったおばあちゃん

H・K (福島県・中1女子)

私は、去年のしん災でお父さんをなくしました。

つなみで家が流され、そして原発。

私には3つも大きな事が起りました。

一番お父さんがいなくなつてこまったことは、今までいっしょにくらしていたおじいちゃんとおばあちゃんと、はなればなれになったことです。

理由は、私はおばあちゃんっ子だったのでめっちゃさびしいからです。

でも、今まで3回転校して、3回目に元の学校にもどれました。

幼稚園の年少や小1の時からいっしょの大切な友達といっしょに学校に通い、いっしょに勉強し、そして今まで通りめっちゃうるさいほどさわぎながら休み時間に遊んでいるので、前の2校はあまり学校に行くのがのり気じゃなかったけど、今は仲良しの友達がいっぱいいるので、めっちゃうきうきで学校に行ってます。

何回も来た余震

H・A（宮城県・高3女子）

3月11日の地震は、今まで一度も体験したことのない揺れでした。少し落ち着いてからグラウンドに避難しましたが、余震が何回も来てびっくりしました。クラスのみんなも先生方も電話がつかず大変でした。1時間ぐらいいしたら、みんな家に帰りました。その時は、津波なんて全然予想もしてなかったです。まわりの人が津波の話をしているのを聞いて初めてわかりました。

学校も震災以降、約1ヶ月休校になり、その時は、家の手伝いなどしました。4月下旬の頃に学校がはじまり、クラスの人や学校の先生方に会うのは震災以来なので、会えて良かったです。学校がはじまってからも4月中は、余震の心配もあるので、午前授業でした。

今は、普通どおりに授業をしています。

最初の方は震災の話とかが多かったけど、今では地震の話などなく、普段と同じような雰囲気です。

少したってから、ニューヨークで募金の話を先生から聞いて、私は迷わず行ってみたいと思いました。自分たち以外でも同じ思いをしている人は他にもたくさんいるので、自分のためだけでなく他の人にも少しでも役にたてたらと思ったからです。実際に行ってみて、いろんな事を学びました。

募金活動も大変でしたが、

思っていた以上に募金してくれた人が多かったのうれしかったです。

一緒に行った人たちとも楽しく過ごせて、

良い体験ができたと思うので、行って良かったと思いました。

本当に亡くなったんだね

T・M（岩手県・小6男子）

今年の3月11日に大震災でお父さんが亡くなりました。

お父さんはとても優しく、正義感の強い人でした。

それでお父さんの働いている所がひなん所になっていて、

お父さんはにげずにひなんしてきた人のお世話をしていたらしく、

働いていた所の近くで見つかりました。

最初は絶対どこかにひなんしていると信じていましたが、

ある日の夜中、

お母さんの電話にお父さんが見つかったと電話がかかってきて

次の日にお母さんからぼくに亡くなったと言われました。

信じていただけに余計に悲しくなっていました。

でもまだ信じられなくて、

火その時にお父さんの亡くなったすがたを見て、

本当に亡くなったんだねと思いました。

火そうが終った今でも

お父さんが亡くなったことが信じられません。

地震があった時は、

いつでもなにもおこらなかつたので、

今回もなにもおこらないと思っていたのに、

こんなことになってしまって、

これからどうすればいいのか分かりません。

津波でなくしたお母さん

K・Y（福島県・中1男子）

お母さんを津波でなくしました。

ぼくが小さいころは、お父さんが単身赴任でお母さんがとても大変でした。でも大型連休のときには、お父さんが福島にもどってきました。

お父さんは、たまにこわいこともあるけど、でもお父さんはやさしいです。

福島に津波がきたときには、びっくりしました。

ぼくは、お母さんがなくなったとは思わなかったです。

家の中で2人の人がなくなっていたのがびっくりしました。

今の生活には問題もなく楽しいです。

お父さんもやっとしごとができてよかったです。

お父さんの仕事場からぼくの家まで、2じかんでこれるのでそれがうれしいです。

空が青くて、とても暖かい日

N・N（宮城県・高1女子）

私は、今までお父さん、お母さん、妹弟の5人で暮らしていました。

お父さんは、朝から夜まで働いてくれて、お母さんは、家事を完ぺきにできる、大好きな両親です。毎日が楽しくて、家でみんなでいる時間が私は好きでした。

しかし、この大きな地震で、お父さんを亡くしてから、生活が、ガラリと変わりました。

地震の時、私は友達の家へ向かう途中で一人でした。卒業式の前日で、学校が早く終わり、家に帰って、遊びに行きました。

これが最後の家を出る時でした。

とても空が青くて、とても暖かい日でした。

自転車に乗っていると地面が、大きくゆれて、立っていられないくらいゆれました。私は、一人でスグくスグくこわかったです。

周りの家の、かわらが、ガタガタと音をたてて、くずれ落ちていくのがわかります。私は、

急いで近くにあったガードレールにつかまり、落ちつくのを待ちました。

何があったのか、わからないまま中学校にひなんしました。

ふと我にかえると、お父さん、お母さん、妹、弟のことがとても心配になり、涙がとまりませんでした。

電話をかけてもつながらなく、どこにいるのかもわからないまま、夜になり、真っ暗い音楽室に、同じ年のみんなが集まり、先生とお互いはげまし合うことをしました。

お母さんと電話がつながった時、お母さんは泣いていました。「今は、弟といる」と聞いてとても安心しました。

しかし「家はもうないんだよ」「パパは、まだわからない」ということを聞いて、言葉がありませんでした。自分では、家は、水に入った、パパは会社の人とひなんしているんだと思っています。

つぎの日、お母さん、弟がいる小学校へ行くと、周りには何もありませんでした。もちろん、昨日まで住んでいた家もありません。

たとえ、家がなくても家族がいれば、だいじょうぶと思っていました。しかし、お父さんだけ、いつまでも見つからず、会社の人たちと、ひなんしたわけでもありませんでした。

もう地震から1ヶ月とゆうのに、お父さんに会えないまま、私のたん生日の4月24日の前日、お父さんが見つかりました。

もう、信じられなくて、悪い夢を見ているようでした。お母さんは、毎日泣いていましたが、私たち兄弟の前では弱いところを見せないようにしているんだなと思いました。

今では、4人の生活。家もやっとの思いできまり、普通に生活できるようにりましたが、ただ、違うのは、尊敬していた父がいなくなったことです。たくさん話したいこと、高校の制服を見せたかったこと、たくさん、たくさんしたいことがありました。

これから先、まだ、どうなるかわからないけど、頑張りたいです。

Eさんは、震災当日、アメリカのカリフォルニアにいた。一週間目に両親の行方不明を電話で聞かされる。まさか自分の親が、想像したこともなかった。震災のあと、毎日、泣く日々、悩む日々がつづいている。こうかいたあと、Eさんはつぎのようにいう。

「けど、私が（妹も）生きている事は、奇せきに近いことだし、両親が妹を生んでくれて、本当に感謝している。一人っ子だったら、やっていけなかったと思う。又、周りの人たちにも感謝している。とにかく、人生は人と人とのつながりで成り立つということを震災という形ですごく理解できた」

私の感想。震災、津波、両親との死別、このうえがない残酷な試練に出合って、悲しみ、苦しみながら、この娘は結果として大きく成長している。子どもとは不思議な可能性をもつ存在だ。彼女がそのように生きてくれることを、だれに感謝するべきか。

Rさんは、大震災で、母、祖父母、おばさん、曾祖母を亡くした。（男たちは出稼ぎにゆき、女たちが地元に残っていた家族が多い）3月11日、母と最後にかわした会話は、「いってきます」「いってらっしゃい」だった。震災のあと、母は学校に迎えにこなかった。

「私が妹に会ったのは3月13日でした。（中略）そこで妹が、『ママは!』と聞いてきて一瞬自分の中で時間が止まりました。妹は『一緒じゃないんだ……』と小さい声でつぶやきました。そこでなぜかわからないけど妹に『ごめんね』と謝っている自分がいました」

私の感想。Rさんはなぜ「ごめんね」といったのか。妹をかわいそうにおもう「ごめんね」。妹を母と会わせてやれない自分の非力さを詫びる「ごめんね」。自分も母の死の予感におびえつつ、妹をさきにおもいやる姉としての「ごめんね」。

まだ、口がひらけない子どももいる。父を亡くしたS君はいう。つどいで父の死について話せなかった理由はふたつ。

「1つは、自分にとってすごく悲しい事だったからです」

「もう1つは、なぜかその時だけ涙が出てきたからです」

S君、話せるようになるまで、いつまでも待つよ。

保護者からのお便り

ガンバル必要はない

宮城県 M・S 父

震災から6カ月、「ガンバロー〇〇」という言葉がとても酷です。

日々の生活に追われる毎日、家が津波で流され、妻が死亡した私はがんばりません。

できることから乗り越えます。子どもたち2人を育てるには共倒れはできないので、無理はしないで乗り切る。ガンバル必要はないと思います。

息子は何を感じているのか

宮城県 K・E 母

このたび、震災後どこよりも早く給付金を支給いただいたこと、心から感謝しております。ありがとうございます。

津波ですが、大規模な火災も目にしていますし、心にどれだけの傷を負ったことでしょう……。これから私一人でどう子育てをしていったらいいの不安でたまりません……。

ひとりじゃないよ

宮城県 Y・I 母

「ひとりじゃないよ」はとても心強い言葉です。

大金をいただけていることは、感謝の言葉しかありません。子どもたちにお金の心配をさせることなく、学校にスポーツに友達にと、笑顔でいつもいられている毎日ありがとうございます。

子どもの笑顔は私には元気のもと、子どもの友人たちに感謝です。でも、私は毎日私の友人たちには会えず、寂しいですが、「ひとりじゃないよ」だけでがんばれます。

主人と義父が震災で亡くなり、自営業の会社も津波で流されてから、現実と向き合う勇気がまだ持てず、息子ともあらためて震災について話し合っています。息子が何を感じ、何を考えているのか？ この現実をどう受けとめているのか……。

同じ境遇の方々と接することで、息子も私も心の整理ができればと思います。

これからの不安です

岩手県 K・S 母

このたびは、多くの皆様方からのご寄付にとっても感謝しております。主人があの日以来、行方不明で、絶望感でいっぱいでした。

6年生の子はあまり話しませんが、下の子2人は「パパは津波に流されたんだよ」とか、「パパ早く帰ってこないかな」といつています。

息子の存在の大きさ

宮城県 Y・T 母

仕事で、震災により、配偶者とお子さんを亡くした方とかかわる機会がありました。その方は家族のあとを追う道を選びました。

いろいろな思いがめぐりましたが、生き残った息子の存在の大きさをあらためて感じています。

人のやさしさと強さ

宮城県 Y・A 母

震災で主人が亡くなりました。子どもと私は津波で首のところまで水につかりましたが、無事助かりました。助かった命を大切にしたいです。

あしなが育英会様からの奨学金を大切に活用し、子どもの望む将来をサポートしていきたいです。被災して強く感じたのは、人のやさしさと強さでした。私も、役立つ人でありたいと思います。

あしなが育英会東北事務所から

世界からの応援を

八木俊介

阪神大震災では、私と多くの同年代の人々が、幼い我が子を残して旅立った。17年間、震災遺児の父や母の無念と、死の意味を考えた。

震災遺児の就職や結婚の報告が聞こえるようになった矢先の東日本大震災。津波遺児2千人のケアと支援は神戸と東京の「虹の家」卒業生が核になる。日本、世界中からの応援をお願いしたい。

「人生で大切なもの」を津波遺児はゆつくりと見つけてほしい。東北虹の家がその一助になる。私は、傷ついた子供達へ心もサポートできる「ほんとうに豊かな社会」を夢見ている。

大きすぎる遺児を抱える問題

若宮紀章

神戸レインボーハウス、そして東京のあしながレインボーハウス、二つの虹の家での子どもとの出会いと経験が、東北で大きな力になっている。遺児の心を癒すには、自分の感情を表現できる安全で安心な場所、プログラムでいつも子どもに寄り添うファシリテーター、両方が必要だ。

震災直後、遺児の抱える問題は大きすぎて、どこからどう手をつけてよいか、まったく見通せなかった。被災地で学校の体育館を借りて、試行錯誤しながら交流プログラムを行った。ファシリテーターも手探りだった。その結果、何が必要かを再確認できたのが、震災から一年間の収穫だ。一日も早く東北に虹の家を建てたい。

私達から歩み寄る

富樫康生

死別の形は様々だ。父を亡くした、母を亡くした、きょうだいも亡くした、親戚も亡くした……。「なんでうちだけお父さん死んじゃったの？」と小学校3年生の息子が聞く。みんなも被災はしたが、うちだけお父さんがいない。だけど「遺児だからかわいそう」とは思われたくない。

作文を書いてくれた子、つどいやワンデイに参加してくれた子たちは、様々なことを教えてくれる。だが、彼らが住む現地を歩き、耳を傾けると、それができない子どもや保護者も確かにいると感じる。来てくれるのを待っているのではなく、私達から歩み寄り「ひとりじゃないよ」と伝え、感じられる場が東北に必要なだ。

人は人でしか支えられない

今野亜紀

東日本大震災で肉親を失った子どもたちは、それぞれ目に見えない想いを抱えている。

笑顔でいたくなくときまで、ずっと笑顔で居る必要なんてない。あしながという場所が、ありのままの自分でいられる場所になってほしい。

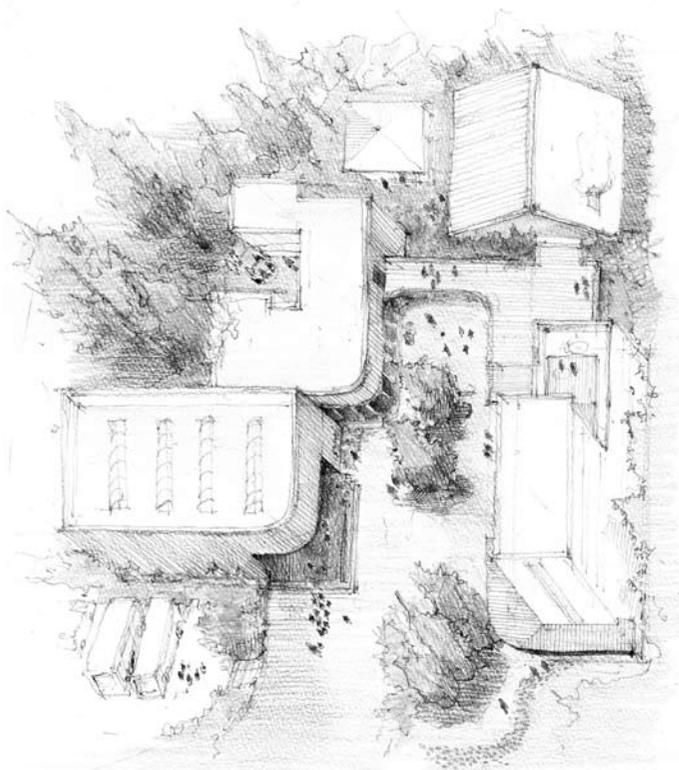
プログラムに参加した奥さんを亡くされたお父さんが「人という漢字の意味。人は人でしか支えられないのだということがわかりました」と言った言葉が、今でも私の心に深く残っている。

私たちはご支援くださる方と子どもたちとの間のパイプ役にしかなれない。だからこそ、これからもご支援くださる方のお気持ち子どもたち、そして保護者の方へ届け、寄り添っていきたい。

悲しみは親を喪った遺児だけのものではない。
愛する人を喪ったすべてのひとの傷ついた心を癒すために――

あしなが東北レインボーハウス 建設募金のお願い

イラスト・小林一行



あしなが東北レインボーハウス完成予想図

ご寄付は、郵便振替口座 **00120-7-355615**

あしなが東北レインボーハウス建設募金までお願いいたします。
また、クレジットカードでのご寄付はHP からお願いいたします。

<http://www.ashinaga.org/>

あしなが育英会 東京本部

〒102-8639 東京都千代田区平河町 1-6-8 平河町貝坂ビル

TEL.03-3221-0888 E-Mail info@ashinaga.org

東北レインボーハウス建設への道

あしなが育英会東北事務所長・林田吉司

両親を失った小1の甥が学校で「お父さんのいない子、手を挙げて」とやった、担任の先生から昨日電話をもらいまして……と、困惑した45歳独身女性の伯母が東北事務所に電話をよこした。

花巻のつどいで出会った女子中学生は小一時間、無言でビーチボールをボランティアの大学生にぶつけて過ごした。妻を流され、小学生を持つ父親に担任の先生が一時金の申請をすすめるが、拒否し続けている。一時金をもらったら、妻が死んだことを認めることになるからだ。

未曾有の東日本大震災が残した傷跡は深い。

震災一か月後の昨年4月11日、仙台駅東口徒歩

10分に東北事務所開設。3日後、本会大学奨学生の手を借り岩手沿岸被災地を隈なく走り、一時金の周知徹底を図った。宮城、福島も。結果約2000人の遺児に一時金を支給した。

遺児の分布を地図にし、中期目標に着手、子どもが日帰り可能な沿岸4か所(大槌町・陸前高田市・石巻市・南相馬市)と仙台市にレインボーハウスを建設したい。瓦礫が残る無言の街跡で、親を亡くしてたたずむ遺児の子らに、早く安心安全で心の内を表現できる時間を空間を提供したい。

4月から東北の大学を卒業した新卒5人を加え、仕事を加速する。

レインボーハウス、そこへ行けば優しい人たちが待っていてくれる。

発行人 玉井義臣
発行所 あしなが育英会
〒102-8639 東京都千代田区平河町1-6-8 平河町貝坂ビル
あしなが育英会東北事務所
〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺1-7-21 新寺KSビル3F
編集人 副田 護
デザイン 山城和界
印刷所 (有)ツ・アート
発行日 2012年3月1日
©Ashinaga Ikueikai2012.

いろんな人とつながりできてよかったです。
いろんなイベントにも参加したいです。

お兄さん・お姉さんへ
またお言ましたりあそぼうね♡

